



なりたい自分になるために④ ～小学校のキャリア教育って？～



若手教諭
うさぎさん



くま先生！お久しぶりです！！

中堅教諭
くまさん



うさぎ先生、お久しぶりです。頑張っていますか？



はい！くま先生。毎日大変ですが、楽しいです。



うんうん、それはいいね。



あ！あと、「キャリア・パスポート」の取り組みもできました。子供たちが、頑張ったことや嬉しかったことを振り返ったり、自分の成長に気付いたりできて、とてもよかったと思います。友達同士で読み合って、いいところを伝え合っている姿も見られてほほえましかったです。



おお、よかったよかった。毎年見返す中で、また、中学校、高等学校へと引き継ぐ中で、努力してきた自分や、人とかかわってきた自分に改めて気が付き、自分の目標やこの先の生き方に生かしていけるよう続けていきましょうね。



そうですね！それと、子供たちは、先生の一言やお家の人からの一言が嬉しいようでした。



そうそう。大人が対話的にかかわり、未来へのイメージを広げていけるようにすることが大切だよ。



小・中・高と、12年間も蓄積するんですもんね！大人の声かけも、きっと中学生や高校生の時に見返すと受け取り方が違うでしょうね。

ところで、くま先生。以前先生がキャリア教育について教えてくださったのですが、なかなか意識して行うことができなくて……。小学校ですべきキャリア教育を簡単に教えてもらえませんか？



なるほど、では、2011年に発行された「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」に小・中・高等学校の「キャリア発達課題」というものが掲載されているから、それを話そうか。

高等学校の課題は「現実的探索・試行と社会的移行準備」だよ。自分の進路について、ある程度具体的に方向性を決めて、その進路に関する知識を深めるなどして、社会や職業への移行の下準備を行うことが課題だね。

そして、中学校の課題が、「現実的選択と暫定的選択」だ。例えば、中学生になると職場体験なんかに行くよね。幼稚園や図書館など様々な職場に行くけど、その中学生は必ずしも幼稚園の先生になりたいから幼稚園にいくわけではないし、花屋さんになりたい生徒だけが花屋さんに行くわけ

ではないよね。こんなふうに、将来との結びつきをそれほど強くは考えなくても、暫定的に決めて体験することで、職業観や勤労観を形成させることが中学校の課題なんだ。



中学校や高等学校だと、職業とか進路という言葉で多少イメージが湧きやすいですね。でも小学生に職業とか進路とかの話ってなんだか遠すぎるというか……。



そうだね。ところで、うさぎ先生はさっき、先生の仕事を「大変ですが楽しい」と言っていたけどそれはどうして？



そうですね……。子供たちとかかわっている時間はとても楽しいです。授業より休み時間の方が好きくらいに！笑顔が見られるのがいいんですかね。



授業より休み時間…うさぎ先生らしいね(笑) そうか、うさぎ先生は「子供とのかかわりがすき」で「人の笑顔が好き」なんだね。うん、これもキャリア教育の一つなんだよ



え！？



小学校の課題は「進路の探索・選択にかかる基盤形成」なんだよ。小学校では、高等学校や中学校とは異なり、未来へのイメージを広げることが大切なんだ。例えば、「アイドルになりたい」という子がいたら、「なんで、アイドルになりたいの」と聞いてあげて、そこで、「歌が好きだから」と返ってきたら、「歌に関われる仕事は他にはないのかな」とイメージを膨らませるための支援をする。そういう視野の広がりを経ながら、学級活動や学校行事をはじめ、様々な教育活動の中で「人と助け合うってすごく面白い」とか「大人になるって、ワクワクするな」とか、「頑張った後はスッキリするんだ」とか、より基本的なことに関する子どもの理解を深めることが小学校のキャリア教育なんだよ。だから、ぼくとの会話の中で、「子供とのかかわりがすき」とか「人の笑顔が好き」とか、自分のことに気付くのもキャリア教育といえる、大切な対話的なかわりなんだよ。



なるほど～。その意識をもって子供たちとかかわっていけば、学習中の声かけとかも変わる気がします！あと、このかわり方って保護者の方にもできそうですね。



うさぎ先生、成長したね。そうだね、保護者や地域の人、子供たちとかかわるすべての人が、子供たちの成長にかかわり、子供たちの未来に対する見方を変えていくことができるんだよ。



これからも頑張ります！